

平成18年度実績評価事務事業進行管理表

事務事業名	乳幼児保健事業				財務会計上の位置付け	会計	款	項	目	細目	細々目	19予算額(千円)
部等名	保健福祉部	課等名	保健課			1	4	1	2	11	1	10,223
政策	3 健やかに安心して暮らせるまちづくり				包含する細々目							
施策	31 心と体の健康づくり											
実施区分	継続	会計	一般会計	環境調整会議	不要	関連計画 条列等		母子保健法 飯田市母子保健計画 すこやか親子21				
		事業期間	S36	年度～	年度							

【Do】(1)この事務事業は次の目的を達成することを目指します。

目的の記述	対象(人や物、自然資源など)	対象の大きさを表す対象指標名と単位	対象指標の数値			
	0～3才児とその保護者	各年の出生児数	現状又は19年度見込	23年度又は終了年度	23年度以前に終了は終了年度とする	
			4013		4000	
			現状又は19年度見込	23年度又は終了年度		
目的の記述	意図(成果は何か、対象をどうかえるか)	成果達成度を表す成果指標名と算定式・単位	成果指標の数値(実績・目標)			
	乳幼児の疾病の早期発見と健やかな発達を促す。 母親等の育児不安が軽減する。	各健診の受診率(4ヶ月・1.6歳・3歳) %	18目標	95	最終目標	100
			18実績	95	19目標	95
			23目標	95	23実績	
						最終目標達成年度
						最終目標達成年度
		母子個人相談と電話相談件数 人	18目標	1100人	最終目標	
			18実績	1429人	19目標	1200人
			23目標	1200	23実績	

(2)意図を達成するために以下のことを取り組みます。

手段の記述	事業の全体概要(補足説明)	具体的活動内容(やり方、手順、詳細)	活動量を表す名称・単位	活動量の値
	安心して子どもを産み、すこやかに育てるための育児支援や、病気・発達の遅れ等の早期発見と、必要な児には療育につなげる機会として、訪問指導・乳幼児健診等を実施している。 ア、親が子どものからだと心の育つ道筋を理解し、育児の見通しをもてるようにする。 イ、同年齢の子どもとその親が交流する仲間づくりの場を提供して、親の孤独な子育てによる不安やストレスの解消や子どもが集団遊びを経験する場とする ウ、健康いいた21の推進として、小さい頃より生活習慣病を予防するための学習の機会とする。	18年度の実績 股関節脱臼検診、4ヶ月健診、1歳6ヶ月健診、3歳児健診の実施 1.6歳健診において、発達障害に関するアンケート調査を実施する。モデル地区で1歳と2歳相談対象 産後うつについてのスタッフの研修と産婦へのアンケート実施	受診延人数 アンケート実施人数 発達障害が疑われる児の人数 産後うつアンケート実施数(4ヶ月児母)	3850人 実施数302人 発達障害が疑われる児24人 292人
	19年度計画 股関節脱臼検診、4ヶ月健診、1歳6ヶ月健診、3歳児健診の実施 1.6歳健診において、発達障害に関するアンケート調査を実施する。 産後うつについての産婦へのアンケート実施	受診延人数 アンケート実施人数 発達障害が疑われる児の人数 産後うつアンケート実施数(4ヶ月児母)	人 実施数 人 発達障害が疑われる 人	

<金額の単位:千円>		18決算額(見込)	19予算額(当初)
事業費	特定財源		
	国庫支出金	1,680	0
	県支出金		
	起債		
	その他		
一般財源	11,774	10,223	
事業費計(A)	13,454	10,223	
人件費	正規職員所要時間	18年度 1,776	19年度 1,780
	臨時職員等所要時間	432	440
	人件費計(B)	6,815	6,838
	トータルコストA+B	20,269	17,061

特定財源内訳や補足事項	
-------------	--

(3)この事業目的の達成は、次の上位(施策や主体の役割)目的の達成に結びつきます。

目的の記述	結果 この事務事業の施策(基本事業)の目的	上位成果指標(施策又はムトス指標)と単位	上位成果指標の数値			
	市民が心身ともに健康を保つ	心身ともに健康であると感じている市民の割合 %	現状値	62.8	19実績	
			20実績		21実績	
			22実績		23目標	63
			現状値		19実績	
			20実績		21実績	
		22実績		23目標		

<p>この事業を開始したきっかけ</p> <p>妊婦や子どもに対する母子保健事業は、戦後まもなくから存在しており、事業の多くは母子保健法に基づいて実施されている。</p>	<p>事業を取り巻く状況の変化</p> <p>核家族化や少子化がすすむなかで、従来家族内で養われてきた親から子に伝承される習慣やしつけと兄弟関係でやられる共存や助け合いが、家の中では取得されなくなっており、親の未熟や経験不足を地域社会が援助しなくてはならなくなっている。子育ての楽しさや大切さを感じるような働きかけや地域で育児家族をサポ-トする体制づくりが必要となってきた。</p>	<p>事業に対する市民や議会の意見</p> <p>乳幼児健診は、すべての子どもの健康確保とハイリスク児の早期発見のためきわめて有効なので、受診率の向上ときめ細かな指導のための取り組みが望まれている。</p>
--	--	--

【See】18年度の振り返り

<p>目的妥当性評価</p>	<p>この事業の意図の達成が、結果(上位目的)に結びついていますか？</p>	<p>(評価) 結びつく (その理由)</p> <p>母子の健康増進と育児支援は、健やかな子育てにつながる。</p>	<p>有効性評価</p>	<p>成果をさらに向上させる余地はありますか？</p>	<p>(評価) 余地がある (その理由)</p> <p>健診の未受診者にたいするアンケートでは理由の一位は保育園に通園していることであった。健診相談事業の受診率の向上のために、保育園と連携をはかり保護者に対して受診勧奨を依頼する等の対応を検討するほか未受診者に対する個人相談や訪問指導を実施する。</p>
	<p>対象の見直し、拡大、縮小の必要性はありますか？</p>	<p>(評価) 必要性がない (その理由)</p> <p>出生数は減少しているが、対象そのもの見直しの必要はない。</p>		<p>廃止・休止した場合の影響はありますか？</p>	<p>(評価) 影響あり (その理由)</p> <p>医療機関や保健所では、一般の健康な乳幼児の健診相談の受け入れは難しい。</p>
	<p>意図の見直しの必要性はありますか？</p>	<p>(評価) 必要性がない (その理由)</p> <p>乳幼児の健康づくりは、生涯を通じて健康な生活を送るための出発点であり、「すこやか親子21」や次世代育成飯田市行動計画の趣旨に沿っている。</p>		<p>他に類似事業はありますか？また統合の可能性はありますか(市以外の取組も含む)？</p>	<p>(評価) 類似事業なし (類似事業名、理由)</p>
	<p>市が関与する必要性はありますか？(市が税金を投入すべき事業ですか)？</p>	<p>(評価) 必要ある (その理由)</p> <p>母子保健法により、各種母子保健事業は市が実施するように定められている。</p>		<p>効率性評価</p> <p>成果を下げずに、事業費や人件費の削減は可能ですか？</p>	<p>(評価) 不可能 (その理由)</p> <p>事業費のほとんどが医師・臨床心理士等健診スタッフの人件費であり、その削減は、健診の質を低下させたり事業の縮小につながる。</p>
			<p>公平性評価</p>	<p>受益者は誰ですか？また、負担の是非、程度は妥当ですか？</p>	<p>(評価) 妥当である (受益者とその理由)</p> <p>事業は母子保健法により市が実施するものである。</p>

【Plan】改革改善

<p>今後の事業の方向性</p> <p><input type="checkbox"/> 終了 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 目的見直し <input type="checkbox"/> 別事業に統合 <input checked="" type="checkbox"/> 事業のやり方改善 <input type="checkbox"/> 現状維持</p> <p>実施年度 → 具体化</p>	<p>何を、いつまでにどうするのかの改革改善案</p> <p>発達障害に関するアンケートは乳幼児本人を対象としているが、健全な児の発達には親の精神面が大変重要である。そのため母親に対するアンケートも検討し、フォローできる体制を考えている。</p> <p>上記の改革改善案を実施する際、想定される課題とその克服方法</p> <p>具体的内容の検討</p>
---	---

【補足事項環境側面】

<p>(1) 環境影響評価の必要性判断</p>	<p>(2) 必要性な場合の実施事由</p>
<p>(3) どのような点に配慮し事業に取り組みましたか？</p>	

【指摘事項】

<p>施策マネジメント会議</p>	
<p>施策評価会議</p>	
<p>第5次基本構想基本計画推進委員会</p>	